

「防災スペシャリスト養成研修」企画検討会 第四回 議事概要

1. 検討会の概要

日 時：平成 26 年 3 月 11 日（月）15:00～17:00

場 所：中央合同庁舎 5 号館 3 階 特別会議室

出席者：林座長、牛山委員、国崎委員、黒田委員、渡辺委員、柳橋参事官、中林教授

2. 議事概要

検討会開催に先立ち、東日本大震災により犠牲となられた方々に対し哀悼の意を表するため、1分間の黙とうが捧げられた。その後、資料に基づく事務局説明ののち各委員による意見交換を行った。主な意見は次のとおり。

(1) 議題 1 「防災スペシャリスト」に求める能力について

- 「活動の前提」に、いろいろな災害事例をおいてはどうか。いろいろなパターンの災害を分かっている方が、活動の具体的なイメージがわきやすい。
- 既存のプログラムとの違いや関係性について言及してはどうか。ほかと比べ、こういう狙いがあるということを示せるとよい。
- 防災対策に必要な活動が防災基本計画に基づいていることを明示しておいてはどうか。プログラムが何に基づきつくられているか示されているとよい。
- 防災対策に必要な活動について、内閣府が研修の対象とすべきところと別の団体で専門的にやるべきものがある。相互に協力し合って進めるのが良い。
- 「活動遂行能力」を身につけるための学習内容に保健衛生があるが、感染症に関することを具体的に入れた方が良い。また、学習項目にある心のケアは重要な活動でタスクレベルではないか。
- 具体的な災害事例を踏まえて伝えた方が、説得力がある。典型的に伝えるべきケースなどを学習項目に明示してはどうか。
- 防災対策が変わるきっかけとなったエポックメイキングな災害は適宜紹介することが大事。
- 防災基本計画が骨格であるのは良いが、自然現象そのものに対する知識教育が入らなくなる。自然現象のもたらすハザードなどは補足した方が良いのではないか。例えば、前提条件に入れてはどうか。

- 既存のガイドラインなどは覚えてもらいたい教材の一つ。ガイドラインを教えることも必要ではないか。学習項目の一つになるかもしれない。
- ハザードについての理解は、「活動の前提」に位置付けられるのではないか。法律・計画に加えて、ハザードのメカニズム或いは予想される被害として加えればよいのではないか。エポックメイキングな災害事例も入る。個別の事例とより一般化した事例としておくのでもよい。
- 研修へのニーズは、特に技能の習得への希望が多い。知識と技能をセットにした研修を整理するのがよい。
- 「活動遂行能力」を身につけるための活動に広報があり、項目に国民への的確な情報伝達活動があるが、国内にいる外国人への対応も具体的に入れておいた方がよいのではないか。男女共同参画なども考慮しておくが良い。

(2) 議題2 有明研修における構想及び内容について

(有明研修について)

- 履修の仕方は、総合管理だけを受けることもでき、総合管理と個別対策を合わせて受けることもできる。また1年目は防災基礎を受け、2年目に個別対策を受けることもできる。受講者自身がコースを選択できるようにしている。
- コースが選択できることになると、本来学んでほしいことが抜けてしまう懸念がある。最低限、これだけ取らないと単位をあげないこととしてもよいのではないか。例えば、いくつかのコースを受講すれば資格がもらえるなど。
- 将来的には、資格制度などの導入を視野に考えていくとよい。
- 防災担当者の質をあげる必要があり、研修を受けなければならなくなるような仕組みや制度が必要ではないか。何らかの強制力があってもよい。
- 防災担当者の持つべき能力を定め、その向上をはかる研修をすることになるので、どれほどの能力が身についたか評価する仕組みがあってもよい。習熟度を評価する仕組みづくりをするべき。
- 組織のある人が防災基礎を受け、複数ある個別対策は、組織のいろんな部門担当者がそれぞれ受けることになれば、個人がスペシャリストにならなくても、組織として総体としてはスペシャリストがいることになる。
- 研修の活用の仕方を示し、各市町村にスペシャリストを育ててほしいというメッセージをうまく提示できるとよい。個別メニューになると同一市町村から複数名が出てくるのが可能となり、全体としてパワーアップできる。

- 個別メニューになり、研修にいろいろな活用の仕方があるのは良い。個人の中の蓄積にもでき、組織として有資格者が増えるという蓄積にもなる。さらなる効果としては、組織間の連携がスムーズになるということがある。
- 体系的な仕組みは、個人にも組織にも、あるいは組織間にもクレジット（信用）がたまっていくということと強調できる。
- 提案されているコンポーネント型の研修は、小さな市町村でも受けやすく、フレキシブルで受講しやすいという面からもよい。
- 「防災スペシャリスト養成」研修を活用し、市町村が組織力をあげるという仕組みができるのは良い。防災部局だけでない広がりがある。
- 研修の受講状況を、都道府県や市町村の防災力強化の指標の一つとして考えてもよいのではないかと。組織としての履修状況を評価してもよい。
- 選択式になるとどう選べばよいか、迷いが生じる可能性があるため、履修プランがあるとよいのではないかと。
- 基礎・個別・総合のバランスを考え、総合の比率をあげた方がよいのではないかと。基礎は将来的にeラーニング化する方向もあるのではないかと。

（出前講座について）

- 出前研修は、防災基礎に地域特性を加えたコースにすればよいと考えている。
- 出前講座はいろいろな使い方ができる。平常時版で実施する研修にも、災害時版として、災害が起きている被災地で提供できる研修にもなる。
- 出前研修の内容は、有明研修のコース内容と大きく変わらない方がよい。「活動の前提」部分として示す事例を、地域特性に応じたものとすればよい。
- クレジットをあげられる範囲内で、地域ニーズに応えられれば良い。
- 出前講座をやるべきところを定め、定期的の実施するといったやり方もある。
- 出前講座を、県とのコミュニケーションが増える場として使える。

（その他）

- 今後、これだけの規模の研修を継続・発展させていくとなると、事務局を常設が必要となるのではないかと。

（3）議題3【報告】研修結果（第4四半期）について

資料に基づく事務局説明が行われた。

以上